



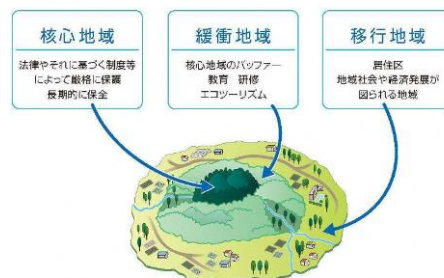
## 【ご参考】【ユネスコエコパークについて】

ユネスコエコパーク（生物圏保存地域、BR：Biosphere Reserves※<sup>1</sup>）は、1976年にユネスコが開始しました。世界自然遺産が、手つかずの自然を守ることを原則とする一方、ユネスコエコパークは、“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和（自然と人間社会の共生）に重点を置いています。現在の登録件数は120カ国669件で、日本では9件※<sup>2</sup>です。

自然と人間社会の共生を目指すユネスコエコパークには、3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）があります。そしてその機能を果たすために3つの地域（核心地域、緩衝地域、移行地域）が設けられています。核心地域では、厳格に自然が保護され、核心地域保護のための緩衝地域では、教育・研修・エコツーリズムなどが行われています。移行地域は、人が生活し、自然と調和した持続可能な発展を実現する地域で、環境を守りながら、循環型で持続可能な地域づくりが行われています。

※<sup>1</sup> 日本ではより親しみをもってもらうため、ユネスコエコパークと呼んでいます。

※<sup>2</sup> 「志賀高原」、「白山」、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」、「屋久島・口永良部島」、「綾」、「只見」、「南アルプス」、「みなかみ」、「祖母・傾・大崩」



### 3つの地域（ゾーニング）

出典：日本ユネスコ国内委員会



出典：日本 MAB 計画委員会

## 【日本ユネスコエコパークネットワークについて】

日本国内におけるユネスコエコパークの地域間連携を促進し、一つの地域では対処できない課題への対応、社会への働きかけなどを行い、ユネスコエコパークの理念に基づいた人間と生物圏とのより良い関係を築いていくことを趣旨とし、ユネスコエコパーク単位が会員として組織しているものです。

## 【みなかみユネスコエコパークについて】

みなかみユネスコエコパークは、群馬県の最北端に位置するみなかみ町を中心として、隣接する新潟県の魚沼市、南魚沼市、湯沢町の一部から構成されています。総面積は91,368ha、その90%以上が森林となっており、標高約300～2,000mの間に位置しています。このエリアは、日本を代表する大河川である、流路延長322km（日本第2位）、流域面積16,840km<sup>2</sup>（日本第1位）の利根川最上流域に位置しており、日本の首都・東京を中心とした、人口・経済において世界最大規模である東京都市圏の約8割、3,000万人の生命と暮らしを支える水の最初の一滴を生み出しています。



みなかみ町全景

群馬県と新潟県の県境は中央分水嶺となっており、山間部は太平洋側であるにもかかわらず日本海側の要素を多く含む多雪の気候で、大量の積雪の影響などにより急峻な岩壁や露岩地に加え、周氷河地形などの豪雪地特有の地形を形成しています。一方で移行地域の中心部がある平地部は積雪量が少なく、冬の日照時間も関東平野とほぼ同等の太平洋側の気候となっています。これにより、みなかみユネスコエコパークは、日本海側と太平洋側の気候条件の移行帯であることなどに起因した、特殊な地形・地質や植生により多様で希少な動植物が育まれ、独特の生態系が見られるなどの特徴を有しています。

エリア内では、国とNGO、地域の3者の協働による生物多様性の復元と持続可能な地域づくりを調査・研究する赤谷プロジェクトや、エコツーリズム推進法により計画が認定されている谷川岳エコツーリズム、木のある暮らしを提唱する木育事業や環境保全型の林業である自伐型林業などが推進されています。また、豊かな自然の恵みである温泉、山や川を活用したアウトドアスポーツが盛んに行われており、きれいな水や寒暖差の大きい気候により高品質な農作物が生産されるなど、豊かな自然が地域の暮らしや経済に深く根ざした、人と自然が共生する地域づくりを行っています。



## 【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,160万本（2018年2月末時点）を超えています。 \*ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

### ー公益財団法人イオン環境財団の活動についてー

#### ■植樹活動

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森の再生を目的として、アジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2018年度は、国内では福島県南相馬市、宮城県亘理町、宮崎県綾町、大分県竹田市、沖縄県糸満市、千葉県千葉市にて、海外では中国北京市密雲区、ミャンマーのヤンゴン、インドネシアのジャカルタにおいて植樹活動を実施します。



2018年 北京市密雲植樹

#### ■環境活動助成

1991年より27年間「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、国内外の地域において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行っています。2017年度は、植樹、森林整備、砂漠化防止、里地・里山・里海の保全、湖沼・河川の浄化、野生生物の保護絶滅危惧生物の保護などを行う団体102件に、9,500万円の助成を行いました。

累計では2,846件、総額25億9,200万円となりました。2018年も継続して環境活動への助成を実施します。



里山の山野草を守る会

#### ■顕彰 生物多様性アワード

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2017年度は第5回「生物多様性日本アワード（国内賞）」を実施しました。2018年度は、第5回「生物多様性みどり賞（国際賞）」を実施いたします。



第5回「生物多様性日本アワード」  
受賞式（国連大学）

#### ■環境教育

##### アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。2017年度は、「生物多様性と再生」をテーマに、王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）の8ヶ国合計64名の学生が参加し、8月1日～6日の期間、日本で開催しました。2018年度は、新たにヤンゴン経済大学を加え、9ヶ国合計72名の学生が参加し、8月2日～5日の期間で、マレーシアのクアラルンプールにて開催する予定です。



第6回ASEP開講式  
（早稲田大学大隈講堂）

## 早稲田大学との連携事業——生物多様性を越えて (Beyond Biodiversity)

国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値共有ができる教育を行うことを目的とするプログラムです。2016年10月6日（に）、ベトナム国家大学ハノイ校で初めて開催しました。2017年は、10月13日（金）に王立プノンペン大学（カンボジア）にて開催しました。2018年は、9月23日（日）に、インドネシアのジャカルタで実施する予定です。



第2回生物多様性を越えて  
(カンボジア王立プノンペン大学)

## 東京大学IR3S —— イオン未来の地球フォーラム

地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行策を議論し、講演と対話型パネルディスカッションにおいて理解を深め、成果をまとめる「イオン未来の地球フォーラム」を2017年より開催しています。2018年1月20日（土）には、東京大学安田講堂にて、「第2回イオン未来の地球フォーラム」を実施しました。第3回は、2019年2月2日（土）に、同じく東京大学安田講堂にて行う予定です。



第2回イオン未来の地球フォーラム  
(東京大学安田講堂)

## 太陽光発電システムの寄贈

再生可能エネルギー活用の啓発・普及および環境教育を目的に、国内外の小中学校へ「太陽光発電システムの寄贈」を2009年から行っています。2016年度までに、日本、マレーシア、ベトナム、中国の合計40校に寄贈しました。2017年度は引続き、中国武漢市の小中学校5校を対象に寄贈しました。



2017年太陽光発電システムの寄贈(中国・武漢)